

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「一人一人の尊厳を守り、やさしく、あたたかく、わかりやすい介護」という方針に基づき、「一人ひとりに寄り添って」を理念とし、その人らしさを大切にする介護を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人一人の暮らし方を大切にしたケアを機会あるごとに皆で確認しあい、日々の実践にいかせられるよう、努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年2回、ぬくもりの里便りを町内全戸に配布している。また里便りを月1回、利用者家族に配布している。年1回程度、シンポジウムを開催して、事業所の理念を知っていただけるよう、努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶は常におこなっている。また職員にも伝えている。どなたでも立ち寄っていただけるよう喫茶スペースも設けているが、なかなか寄られることは少ない。	○	喫茶スペースを、近所の方が気軽に利用して頂けるような工夫を考えていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(敬老会・学校行事への参加・地域の夏祭りなど)には積極的に参加している。また地域の子供会主催のラジオ体操への場所の提供、利用者も参加し、交流する場となっている。涌出の行事(もちつき)にも地域の方に参加して楽しんで頂いている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	前年度では、法人として介護予防講演会を老人会と共催し、実践報告や劇により、予防の大切さや予防事業への参加を呼びかけたが、今年度はまだ実施していない。今年度中に実施予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について職員に伝え、事業所に求められていることややっていかなければならないことを知ってもらうため、全職員に記入してもらって、それを集約している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、開催している。11月には家族にも呼びかけ、歯の勉強会を実施した。その際、普段の様子なども報告させていただいた。	○	会議で話し合われたことや出た意見をさらにサービス向上へ生かしていきたい。また、今回の勉強会では、身近な題材で皆さんにとっても喜ばれたので、今後も継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には高齢介護課の課長に参加していただいている。また今年度より、包括支援センターの職員の方に参加していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について介護支援専門員の資格を持っているものは知識としてあると思うが、他の職員の学習する機会は持っていない。	○	学習する機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、身体拘束委員会や職員会議等で考える機会があり、日常のケアのなかでも小さな傷やあざも見逃さないようにしており、決して虐待がない様、職員全体が周知し、努めている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書を読むだけでなく、疑問点など質問しやすい雰囲気を作れるよう、心がけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に御意見箱を設置している。意見箱に投書はないが、利用者の希望や困っていることを日常の中で出来るだけ把握するよう心がけている。年1回、満足度調査も実施し、利用者の思いを聞かせて頂く機会もあり、その意見をケアに反映している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、御家族に利用者の様子を手紙で知らせている。また年1回、家族会を持ち、グループホームでの生活の様子なども含め、近況を報告している。それ以外には状況に合わせて、報告すべきことはその都度、個々に連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。意見箱に投書はないが、日頃から御家族の希望や思いを把握できるよう、心がけている。年1回、満足度調査を行なっている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の職員会議で意見を言い合い、話し合っている。また、その都度、意見を聞く機会を持っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員会議で現在の状況を話し合い、その都度、検討し対応している。現在の勤務時間で問題がないことを確認しあっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は頻繁には行なわれていない。職員交代による利用者へのダメージについても十分理解しており、新入社員が来ても慣れるまで、利用者がとまどわれないよう、他の職員が配慮している。</p>	

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれの職員に合わせ、施設内、外の研修を実施している。また職員が受けた研修を積極的に受けられるような環境がある。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>個々には施設外研修において、同業者の方々と交流する機会はある。法人内の事業所との交流は定期的に持っているが、市内のグループホームとの交流はない。</p>	<p>○ ネットワーク作りをやっていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会主催の日帰り旅行であったり、食事会など。また日頃から、相談しやすい環境作りを心がけている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年度初めに、個々で年度目標をたて、それに対して、施設長と面談し、自分自身を振り返る機会をもつことができている。年2回、個々による自己評価のうえ、上司による評価がある。また評価後、総合施設長による個人面談を実施している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時には、特に関わりを多く持ち、ゆっくりとお話できるようにしている。御本人のおもいや希望をしっかりと受け止めるようにし、安心感を持っていただけるよう、また不安を取り除けるよう、努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や入所の申し込みの時点から何でも相談していただけるような雰囲気作りを心がけている。御家族とのコミュニケーションを大切にして、来説時には、こちらからあいさつをして、近況報告など、積極的に話をしよう心がけている。</p>	

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと把握し、その方に適したサービスを紹介したり、様々なサービスの情報を提供し、選択肢を増やす対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所も可能であり、御本人にここにいてもいいと思ってもらえるまで、しっかりとお話させていただいている。落ち着くまで、御家族にも協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ること、出来そうなことはどんどんやっていただけるような関わりをもてるよう努めている。日々の関わりの中で、人生の先輩であることを頭に置き、家事などいろいろな作業を通して、学ばせて頂くことが多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の思いも大切にしながら、御本人の若い時のことを聞かせていただいたり日々のケアに反映出来る様、努めている。また、少しの変化でも機会があればお話し、相談させていただいてる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族との関係は入所時より徐々に関わりを持つ中でわかることもあり、御家族の関係をそれぞれに理解に努め、必要があれば、職員が間に入り、サポートしたりして配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人などいつでも来ていただけるようにしており、良い関係が持続できるよう支援している。お友達の誘いでクラス会に行かれたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の利用者がその人らしく暮らし、なおかつともに生活しているもの同士、助け合い、支えあっているよう、職員も間に入り、援助している。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了になっても気軽な相談窓口としての役割が果たせるよう、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表(涌出ぬくもりの里独自のもの)を用い、担当が聞き取り、カンファレンスを行い、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、アセスメントを行なっている。入所後も御本人や御家族と話をしながら、把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者が一人一人、アセスメントしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者によるアセスメントに基づきカンファレンスをひらき、チーム皆で話し合っている。御本人、御家族の意向を入れ、作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行動実施表により毎日チェックし、毎月評価している。見直しが必要な時は随時、カンファレンスを開いている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間とも日々記録して情報の共有を図っている。また必要に応じて、24時間シートを使ったりしながら、その時々に必要な情報を記録して、日々のケアに生かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの美容室へ職員とともに行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんにボランティアで毎月、書道を教えていただいている。年2回、消防の方に来ていただき、消防訓練を実施している。社協主催の地域の祭りに、日頃にみんなで作っている作品を出展している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日中、小規模のレクリエーションに参加することがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年度より運営推進会議に出席していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者、御家族が希望される医療機関を受診されている。体調の変化があった時は、主治医に連絡を取り、指示を仰いでいる。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あたたかく、親しみのある会話を大切にし、常に利用者一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけるような言葉かけや対応にならないよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の思いや希望が出せるような雰囲気作り。また、思いをうまく伝えられない方の思いを汲み取れるよう、引き出せるような対応ができ、自己決定を支援し、尊重できるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特になく、常に一人一人の暮らし方を支援するよう努めているが、時々、業務に追われ、職員主体になってしまうこともある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は自分の好みで選んで着ておられる。理美容、今まで行っておられた店に行かれたり、御本人の希望により近くの美容院にお連れすることもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力を生かしながら、食事作り、片付け等の支援をしているが、職員がしてしまっていることも多く、利用者の力を活かしきれていない場面もある。	○ もっと利用者の方の力を引き出せるよう、支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望を献立に取り入れている。おやつはその日その日、希望を聞いたり、一緒に買い物に行った時に選んでもらっている。	

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態を把握し、個々に合わせたケアを行いながら、羞恥心に配慮した声かけや誘導を行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、一日おきに入浴していただいている。希望に応じて、入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、薬に頼らず眠れるよう、日中に活動していただけるように心がけている。休みたい時は、自由に自室に帰って休まれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の出来ること、出来そうなことを見極め、毎日の生活の中で役割を持っていただき、介護計画を立てている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度、自分で持っておられる方もありますが、ほとんどの方は現金を持っておられない。買い物に同行した時か、買ったものがあれば立替払いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に交代で同行してもらっている。その他、外に出たいといわれたときは、一緒に散歩などに出かけている。	○	もっと外出できる機会を増やしていけるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	少し遠くに外出に出かけたり、日帰り旅行にも家族と一緒にいった。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通じてやり取りが出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や知人の方が気軽に来ていただけるような雰囲気作りがけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護方針でもあり、拘束をしない介護を職員は正しく理解し、日々実践している。身体拘束委員会にて定期的にアンケート実施、日々のケアを振り返る機会を持っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。個々の行動特性を理解し、見守りを行っている。夜間のみ防犯上施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に個々の行動パターンを意識し、職員間の連携をとっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて対応している。危険防止のために、必要であれば保管、管理も行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を中心に研修し、取り組んでいる。また緊急事態に対してのマニュアルを設置している。事故報告書、ひやりはっと報告書を記入し、振り返り、解決策を皆で考え、事故防止に取り組んでいる。職員会議等で研修も行っている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを設置している。職員会議等で研修も行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの避難訓練を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来るだけ自分で動いていただくので、転倒等のリスクが大きいことなど、一人一人に応じて、家族に伝えている。また、事故を未然に防ぐにはどうしたらよいかを会議でも話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の観察を十分に行い、少しの異変にも対応している。申し送り等により情報の共有化を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人服用されている薬の種類、またその目的についてまとめた一覧があり、みんなが把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や毎日、体操の時間を持つたりと運動を促し、便秘予防を図っている。排便困難な利用者は主治医に相談し、薬の調整をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、見守り、一部介助等、個々のの利用者に合わせて対応し、毎食後、口腔ケアを行なっている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアプランに基づいて、その方にあった食事を提供している。(量・刻みなど)栄養を考えた献立(管理栄養士の指導あり)いつでも飲めるように、皆さんの手の届く場所にお茶をセットしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルによる対応をしている。法人内感染予防委員会に参加、定期的に勉強会を実施し、常に気をつけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入し、安全、新鮮なものを提供している。調理時や調理器具も適切に毎日、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、3箇所ゲートを開けている。玄関の施錠もしていない。近隣の方、御家族のかたがいつでも利用できる喫茶室を設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごしていただけるよう、温度、湿度に配慮している。季節に合わせて、飾りをしたり、庭の花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファもあり、それぞれが居心地の良い場所で過ごされている。独りになれる場所もあるが、あまりそこでは過ごされることはない。	○	もっとそれぞれの方が居心地がよく過ごせる空間作りを考えていきたい。

グループホーム 涌出ぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれたものを持ってきていただくように入所時にお話しているが、持ってこられる方は少なく、新しいものを搬入されることが多い。	○	自宅に近いなじみの環境を準備、その人に合わせたしつらえを考えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間、換気をおこなっている。室温や湿度にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを付けている。玄関はバリアフリーとなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札をつけている。トイレには桜の花のしるしをつけており、一人一人の状況に応じ、声かけを行い、混乱のないよう努めている。御利用者同士がトイレの説明をされる時にも「あの花の印があるところ」と言っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一年を通して庭やベランダに草花や野菜を植え、水遣りや草引きを一緒に行っている。庭掃除も季節の良いときは、一緒に行っている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム涌出ぬくもりの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人のターミナル委員会の勉強会を通して看取りについて学んできましたが、今回、はじめてグループホームでターミナルケアをを取り組むこととなりました。まだまだ不安な気持ちが多いのですが、緊急時のマニュアルの作成であったり、最後まで私達が支えていくという職員の意識も大きく変わったように思います。日々、皆で御家族、地域の方が気軽に訪れることのできる環境作りに加え、利用者の方が安心して「ここで最期まで過ごしたい」といつてくれるか関わり方を日々、学んでいます。